

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 073

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	日本フィルとの友好提携事業の実施		36	回
	杉並公会堂利用料の支出（延べ日数）	62	日	11,149
	文化・芸術活動への助成	18	件	8,427
	その他（情報紙の発行ほか）			18,041
事業実績	<p>日本フィルハーモニー交響楽団との友好提携に基づき、日本フィル、杉並公会堂、区の3者による実行委員会形式の演奏会「日本フィル杉並公会堂シリーズ」を4回、そのほか、公開リハーサルを4回、学校への出張音楽教室を9回開催するなど計36回の演奏会等を実施しました。</p> <p>文化・芸術活動への助成については、文化芸術活動事業11件、企画提案事業5件、大会等参加支援事業2件に助成しました。また、令和3年度に延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成に向けた「和文化を国内外に発信するアート展」などの事業展開を図りました。</p>			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>文化・芸術情報誌「コミュかる」を平成24年5月より発行し、区内の文化・芸術に関する情報や杉並公会堂、座・高円寺でのイベント情報などを区民に提供するとともに、区民が優れた文化・芸術に親しめる機会や環境を整えてきました。</p> <p>日本フィルハーモニー交響楽団との友好提携（平成6年度）に基づき、杉並公会堂におけるコンサートや区役所ロビーコンサートなどの提携事業を行い、毎回多くの区民に文化・芸術に親しむ機会を提供してきました。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>文化・芸術を取り巻く社会環境の変化を機敏に捉え、文化・芸術活動を実施する区内施設及び区内で活動する事業者を支援することを通じて、区民等が安心して文化・芸術を楽しむことができる環境を安定的に確保します。</p> <p>また、平成6年から友好提携関係にある日本フィルハーモニー交響楽団においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい生活様式における観賞を模索しながら、友好提携関係を維持し、区内での多彩な音楽活動の支援、区民が身近なところで質の高い文化に触れる機会を創ります。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>これまで、提携事業は多くの来場者で賑わってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、日本フィルハーモニー交響楽団の3月の2公演が中止となり、提携事業の実施計画に影響を受けました。</p> <p>文化・芸術活動を意欲的に行っている区民が年々増加しており、令和元年度においても後援・共催名義使用承認事業実施件数は、計画（目標値）を超えています。</p>
評価と課題	<p>令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、3月以降、日本フィルハーモニー交響楽団の一部の公演が中止となりましたが、今後は、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、区民が安心、安全に文化・芸術に触れる環境を維持できるよう、提携事業を実施していきます。</p> <p>また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は令和3年度に延期となりましたが、子ども向けの伝統芸能イベントや和文化を国内外に発信するアート展を継続して実施する等、実現可能な文化プログラムを実施していきます。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>文化・芸術活動に触れる機会が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて停滞したため、文化・芸術への感度の高い区民が活動を再開できるよう、文化・芸術に親しめる環境を維持します。</p> <p>また、区民が文化・芸術に親しむことができる機会の創出を目指し、日本フィルハーモニー交響楽団との友好提携事業や、文化・芸術活動に関する情報の収集・発信を効果的に行うため、アーカイブ映像や文化・芸術情報紙「コミュかる」を積極的に活用します。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 078

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	管理運営委託（指定管理者）		1	館
	芸術監督報酬の支出	12	月	4,200
	運営懇談会開催	3	回	263
	施設管理	12	月	2,786
	その他（地域協議会開催、備品購入ほか）			15,847

事業実績

芸術監督の監修のもと年間を通じて様々な芸術文化普及振興事業を実施しています。令和元年度は、誰もが気軽に足を運ぶことができる「広場」のような劇場というコンセプトのもと、大人から子どもまで楽しめる作品の充実を図りました。
指定管理制度により、芸術文化普及振興事業の充実並びに施設の適正な運営及び管理を図ることを目的として、運営懇談会を開催し、これまでの実施・運営状況について広く意見を求めました。

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>【来館者数】平成21年度：215,780人 平成29年度：195,703人 平成30年度：190,582人 令和元年度：175,394人</p> <p>指定管理者の主催提携事業を実施する座・高円寺1や、区民等が演劇等を行う座・高円寺2、阿波おどり利用を優先した阿波おどりホール等を有し、多くの人々が集い、新しい時代の個性的な芸術文化施設として、地域住民や区内他地域、文化・芸術に携わる関係者から高い関心と期待が持たれています。また指定管理者は、高円寺4大祭りへの会場提供等の運営協力をを行い、高円寺地域に密着した劇場として高円寺地域の賑わいの創出に大きく寄与しています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>開館以降、座・高円寺2及び阿波おどりホールの利用率は平均80%程度で推移しており、地域住民や文化・芸術に携わる関係者からの高い需要が伺えます。文化・芸術を取り巻く社会環境の変化を機敏に捉え、引き続き地域に根差すとともに、コロナ禍における新しい生活様式に対応し、区民等が安心して利用や鑑賞できる施設を目指していきます。</p> <p>杉並芸術会館は令和2年度に、令和3年度からの次期指定管理者を選定します。令和4年度からは次の10年に向けた新たな基本構想の策定が予定されていることから、文化・芸術を取り巻く環境の変化を機敏に捉え、杉並芸術会館を起点とした更なる芸術文化普及振興の発展に取り組んでいきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>座・高円寺2及び阿波おどりホールの利用率は、令和元年12月までは平成30年度を上回るペースで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和2年3月は、ホールの利用ができなくなったこと、春休みライブコンサートなどの芸術文化普及振興事業が中止となったことから、計画を達成できませんでした。</p> <p>今後も新型コロナウイルス感染症の影響により、ホール利用数の減少や芸術文化普及振興事業の縮小、中止も懸念されますが、感染症対策を講じつつ、区民等が安心して利用できるホール運営と演劇・舞踊等の優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供に取り組んでいきます。</p>
評価と課題	<p>令和元年度は、指定管理者が持つノウハウを活用し、多世代の方が幅広く楽しめるよう、芸術文化普及振興事業の内容の充実を図るとともに、地元商店街との協力関係のもと、毎月1回、地域の食文化を発信する「座の市」を開催し、高円寺地域のにぎわいの創出に大きく寄与しました。また、演劇ワークショップの実施、小中学生による舞台芸術の職場体験等を令和元年度は7校109名（平成30年度は6校102名）で実施する等、文化・芸術活動の拠点として成長しています。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>地域に根差した文化・芸術活動の拠点として、本施設ならではの良質で多彩な事業を区民等に提供していくため 国の「文化芸術創造拠点形成事業」補助金等を引き続き活用していきます。</p> <p>また令和3年度から、新たな指定管理期間が開始されますが、開館以降、高水準で推移している座・高円寺2及び阿波おどりホールの利用率や、地域住民や文化・芸術に携わる関係者からの高い需要に応えることができるよう、指定管理者の創意工夫を生かした事業運営を継承していきます。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 080

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）	
	施設サービス購入		2	回	367,784
	維持管理・運営サービス購入		4	回	435,086
	その他（事業連絡会開催ほか）			4,891	
事業実績	<p>PFI事業として杉並公会堂の施設利用、維持管理・運営を円滑に行うため、施設サービス購入料を2回、維持管理・運営サービス購入料を4回支出しました。</p> <p>また、区、日本フィル及びび公会堂の三者の実行委員会方式による協働事業である日本フィル杉並公会堂シリーズを4回行うなど、計24回の自主公演を行いました。2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、自主事業数やホールの利用回数が減少しました。</p>				

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	
評価と課題	<p>区民が気軽に安心して杉並公会堂を利用できるようアンケートを実施しています。アンケート結果として、譜面台の数を増やして欲しい、椅子を取り換えて欲しいといった、利用者目線でいただいたご意見について、施設利用の改善を図りました。</p> <p>令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、杉並の文化拠点として、多くの区民が優れた文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、区民の文化・芸術活動のために、安心、安全に利用出来る環境を目指し、引き続き杉並公会堂と連絡調整を綿密に行ってまいります。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>杉並公会堂は、PFI事業を活用して約33年間（平成15年～令和18年）に渡り、PFI杉並公会堂株式会社と「杉並公会堂改築並びに維持管理及び運営事業契約書」を締結しています。</p> <p>PFI事業導入の効果として、区が設計・建設・運営・維持管理を一括して特定事業者に委ねることにより、区が直接行う場合に比べ財政支出を抑制することができます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、新しい生活様式の導入により、自主事業収入等の減も懸念されますが、今後も安定的な運営を行えるよう事業者との連携を図ってまいります。</p>	